



出張報告書

2026年 8月28日

尼崎市議会議員 様

会 派 名 市民グリーンクラブ

代表者氏名 宮城重輔

出張者氏名 佐野匠

このたび、出張しましたので、次のとおり報告します。

1 出張期間 2026年 8月20日から 2026年 8月20日まで

2 結果の概要

用務先 京都市	報告事項 (この欄には要点を箇条書きにし詳細事項がある場合は別紙添付) 決算審議特別セミナー (地方議員研究会) ・決算審議特別研修1 ・決算審議特別研修2
添付書類 ☒ 出張報告書 ☐ ☐ ☐	備考

3 届出事項の変更等 ☒ なし ☐ あり (内容は裏面に記載)

旅 費 の 清 算

- ☒ 精算額は、2026年7月7日届け出た額 (1,640円) と同一額である。
- ☐ 届出事項の変更等により、別途清算する。(精算額は裏面に記載)

(裏面)

届出事項の変更等の内容

変更等の事項と理由

支 出 額	
精 算 額	
支出 差引 額 戻入	

変更前と後の日程

月	日	日	日	日	日	日	日
発着地	前						
	後						
経 路	前						
	後						
用務先	前						
	後						
宿泊先	前						
	後						

出張報告書

1.出張概要

(1) 出張者名: 佐野 匠

佐野 匠

(2) 所属・役職: 尼崎市議会議員 市民グリーンクラブ

(3) 出張先: 京都 JA ビル

(4) 出張期間: 2026 年 8 月 20 日

(5) 目的: 寝屋川市前副市長が教える決算審議特別セミナー

2.出張内容

本出張は、前寝屋川市副市長の市川克美講師による研修である。地方自治体の決算書や財政指標の読み方だけではなく、決算審査でどのような視点を持って行政の仕事を検証するのか、質問をどのように深めるのか、そして決算審査をその後の一般質問や政策改善につなげていくのかについて、実践的に学ぶことで理解を深めることを目的としている。

3.成果・所見

本研修・出張を通じて得られた知見や課題を以下に整理する。

(1) 前年度との比較

決算とは、単に「前年度にいくらお金を使ったのか」を確認するものではない。予算で何を約束し、実際に何を行い、どれだけの成果が生まれ、その結果を踏まえて今後どうするのか。そこまで確認して初めて、決算審査の意味があるのだと改めて感じた。

しかし、単純に「今年は増えた」「去年より減った」と見るだけでは十分ではない。

例)事業費の総額がほとんど変わっていないくても、

・契約先が変わっている ・契約方法が変わっている ・1つの事業が複数の事業に組み替えられている ・委託料だったものが別の費目になっている ・委託の内容が変わっている

といった変化が隠れていることがある。総額だけではなく、その内訳を見る必要があります。そして、「何が変わったのか」だけではなく、「なぜ変わったのか」を確認する。さらに、「その結果、市民にどのような効果があったのか」まで見る。この「一段深く見る」という姿勢が大切である。

(2) 「内訳」と「要因」は違う

質問の仕方について。例)ある基金への積立額が大きく増えていた。そこで、「増えた内訳は何ですか」と聞けば、寄附金や利子収入、ふるさと納税など、何によって構成されているかが答えられる。しかし、「増えた要因は何ですか」と聞く場合には、さらにその背景まで確認する必要がある。例えば、ふるさと納税が増えたのであれば、なぜ増えたのか。

さらに、その増加を一時的なものにせず、今後どうつなげていくのか。と聞くことができる。

つまり、内訳 → 要因 → 原因 → 効果 → 今後の対応 というように質問を深めていくために「数字を聞く」のではなく、数字の意味を聞く。これが決算審議でも意識したい。

(3) 「検討します」で終わらせない

行政の答弁を具体化するという考え方について。議会では、「今後の課題として検討します」という答弁を聞くことがある。しかし、それだけでは、「実際に何をするのか」が分かりません。何を検討するのか。現在、何か動いているのか。関係者と協議しているのか。誰が担当しているのか。いつ頃までに判断するのか。と具体的に確認していく。「検討」という言葉を責めるのではなく、言葉を具体的な行動に変えていくことが重要である。

(4) 契約やプロポーザルも「結果」だけではなく過程を見る

決算審査では、委託料や工事請負費、物品購入などについても、前年度との違いを見ることが重要である。

特に、「毎年、同じ事業者と契約している」という場合。同じ事業者だから問題だということではありません。その事業者にしかなできない仕事なのかもしれませんし、システムの継続性など、合理的な理由がある場合もある。だからこそ、なぜこの事業者なのか。他の事業者ではできないのか。競争性は確保されているのか。なぜこの契約方法なのか。と確認することが大切である。

プロポーザル方式についても、選ばれた事業者だけを見るのではなく、

・選定委員会の構成 ・外部有識者の有無 ・選定基準 ・採点方法 ・選定理由 ・会議記録

など、選定に至る過程そのものを見るという視点を学びました。

(5) 財政指標は「健康診断」と同じ

財政力指数や経常収支比率、将来負担比率などの財政指標は、自治体の「健康診断」のようなものだという説明があった。健康診断で血圧が高いからといって、その数字だけで人間の健康状態すべてを判断できるわけではない。自治体財政も同じく、ある指標が高い、低いというだけで、「良い自治体」「悪い自治体」と判断することはできない。見るべきなのは、現在の数字だけではなく、過去からどう変化しているのか。そして、類似した自治体と比べてどうなのか。さらに、財政状況が市民サービスにどう表れているのか。ということを考えたい。例えば、財政指標が良好でも、学校や公共施設の老朽化が進んでいるかもしれない。逆に、必要な公共施設整備を積極的に行ったことで、ある財政指標が悪化することもある。したがって、「財政が健全だから良い」という単純な判断ではなく、財政と行政サービスをセットで見る必要がある。

(6) 「財政が厳しい」という説明も具体的に聞く

行政から「財政が厳しい」と説明に対して、議員としては、「厳しい」という言葉だけで判断するのではなく、何の財源が不足しているのか。いくら不足するのか。いつ不足するのか。一時的なのか、構造的なのか。類似自治体と比較してどうなのか。まで確認する必要がある「財源がない」という説明についても、何の事業に対する財源が、いくら足りないのか。まで具体化する。市民に対して説明責任を果たすためにも、これは議員に求められる重要な仕事である。

(7) 数字だけでなく「前提」を確認する

防災設備を例に、行政が設定した基準そのものを検証する必要があることについてはなしがあつた。例)非常用発電設備について、「72 時間稼働できる設備が必要です」という説明について。そこで、「72 時間なら安心ですね」で終わるのではなく、「なぜ 72 時間なのか？」と考え、想定している災害は何なのか。ライフラインはどの程度停止する想定なのか。必要な電力量はどの程度なのか。燃料は確保できるのか。道路が寸断された場合でも燃料を運べるのか。72 時間を超えて避難生活が続いた場合はどうするのか。

こうした前提を一つずつ確認していくことを災害だけでなく、行政が示した数字や基準を「前提だから」と受け取るのではなく、「その数字は何を根拠に設定されたのか」を見ることが、政策を検証する上で重要である。

(8) 「尼崎市だから必要なのか」を考える

全国の自治体で同じような政策が行われている。子育て支援、防災、DX、高齢者支援、公共交通、公共施設再編など、全国的な課題はたくさんある。

しかし、「他の自治体がやっているから尼崎市もやる」では十分ではない。

尼崎市の人口構成や地域特性、市民ニーズ、利用状況、費用、成果、将来の需要などを踏まえて、「なぜ尼崎市で、この事業を行う必要があるのか」を考える必要がある。

政策を「流行っているかどうか」ではなく、尼崎市民にとって本当に必要なのかという視点から検証していきたい。

(9) 公共施設は「今年の修繕費」から「将来のまちづくり」へ

公共施設の老朽化について。例)毎年数百万円をかけて 1 つの施設を修繕している。決算審査では、「今年はいくら修繕したのか」と確認するだけでも間違いではない。しかし、そこで終わらず、「この修繕をあと何年続けるのか」と考える。その先には、・建替え・複合化・集約化・用途変更・廃止といった選択肢がある。個別施設の決算から、施設全体のあり方、そして尼崎市全体の公共施設政策へと視野を広げる。人口減少や施設老朽化を考えることが、今後の社会情勢をふまえるとますます重要なテーマである。

(10) 決算審査は「その年」で終わらせない

継続して行政をチェックするという考え方について。決算審査で課題を見つけたら、それで終わりではない。

決算審査→(課題を発見)→一般質問→(改善策・今後の対応を確認)→進捗を確認→次の決算→(実際に改善されたか検証)という流れをつくる。

一度質問して、答弁をもらって終わるのではなく、「去年、こう答弁しましたよね。その後どうになりましたか？」と確認する。このように、議員による継続的な政策監視とすることができる。

(11) 議員と行政は「敵」ではない

行政との信頼関係について。議員には行政をチェックする役割がある。問題があれば厳しく指摘しなければならない。しかし、「行政は何か隠しているはずだ」という前提で職員と接し続ければ、必要な情報まで出てこなくなる可能性がある。

一方で、行政職員からすれば、本会議や委員会では正式に確定した内容しか答えられないこともある。だからこそ、必要に応じて担当職員や管理職、副市長などとも直接話し、「この制度について、もう少し詳しく教えてください」と聞く。議員が理解するために職員の説明を聞くことは、行政と馴れ合うことではない。それぞれの立場を守りながら、率直に意見交換できる関係をつくること。そのことが、結果的に市民のための政策形成につながるができる。

(12) 評価すべき仕事は、きちんと評価する

決算審査は、問題点を探すことだけではない。成果が出ている事業や、職員が努力して実現した取り組みについては、「この取り組みは評価しています」と伝えることも議会の役割である。厳しく問うことと、評価することは両立させる。むしろ、良かったものは評価し、改善すべきものは具体的に改善を求める。そうした議会と行政の関係が、より良い市政につながる。

(13) 議員として「数字を読める力」を身につける

今回の研修を通じて、財政についてもっと勉強する必要性も強く感じた。議員が財政を理解すれば、・数字の変化に気づく・他自治体との違いに気づく・行政説明の前提に気づく・事業費と成果の関係を考えられる・将来の財政負担を考えられるようになる。情報を集めるだけでなく、知識と教養を身につけ、自分だけの専門性へと積み上げていくことが大切である。

すべての政策分野の専門家になる必要はないが、自分が特に力を入れる分野については、行政職員と専門的な議論ができるところまで勉強する。それが議員としての政策力を高めることにつながる。

(14) 今後、尼崎市の決算審議で大切なこと

(14.1)前年度との比較を徹底する

「増えた・減った」だけでなく、内訳や契約、事業構造まで確認する。

(14.2)現在の数字だけで判断しない

過去 5 年、10 年の推移や類似自治体との比較する。

(14.3)「財政」と「市民生活」をつなげる

財政指標の改善・悪化だけでなく、市民サービスにどのような影響があったのかを確認する。

(14.4)行政説明の「根拠」を確認する

「財政が厳しい」「72 時間必要」など、行政が示す前提について、その根拠を確認する。

(14.5)契約・プロポーザルの透明性を見る

契約先、契約方法、競争性、選定過程などを確認する。

(14.6)不用額を見逃さない

「使わなかった」という事実だけでなく、なぜ使わなかったのか、翌年度予算にどう反映したのかを確認する。

(14.7)公共施設を長期的な視点で考える

修繕費だけを見るのではなく、建替え、複合化、集約化など将来の施設政策につなげる。

(14.8)決算を次の一般質問につなげる

決算審査で見つけた課題を、その後も継続的に確認する。

4.感想

決算審査とは「数字の答え合わせ」ではないと気づきました。数字の裏側には、行政の判断や契約、事業を実施した職員の仕事があります。そして、その先には市民の暮らしがある。だからこそ、「いくら使ったのか」だけではなく、「なぜ使ったのか」「どのように使ったのか」「何が変わったのか」「市民にどんな効果があったのか」「これからどうするのか」まで確認する。

そして、一度の決算審査で終わらず、一般質問やその後の進捗確認につなげ、次の決算で改めて検証する。これからの尼崎市議会で、私はこのサイクルを大切にしていきます。